

理工院生がベンチャー企業立ち上げ

Web制作・音声認識システム・人材育成 ユニークなお寺と幼稚園のIT化事業

IT関連企業を設立して、ほぼ1年。

現役大学院生の社長が経営する会社は、順調に事業を広げている。

大企業が注目するシステム開発やユニークなアイデアは、学生ならではだ。

何の資産もなかった会社をここまで育ててきたのは、「人脈」というのも面白い。

オフィスは

高層マンションの2階

西池袋の東京芸術劇場にほど近い高層マンションの2階。その一室が現役大学院生が起業した会社の「城」だ。社名は「三宝ソリューション合同会社」。設立は昨年7月。マンションのドアには、まだ会社名が表示されていない。

室内はテーブルが1台。それに長机にパソコンが3台。これ以外に目立ったものはない。殺風景ですらある。

「はじめまして」と元気に迎えてくれたのは、「三宝ソリューション合同会社」社長兼CEO(最高経営責任者)の稲村博央さん。それにCTO(最高技術責任者)の松本雄太さんと、CFO(最高

財務責任者)の伊藤恵悟さんの2人。3人は、いずれも中央大学大学院理工学研究科システム工学専攻修士2年生だ。

稲村さんは金融工学を学んでいる。「金融工学っていうと、儲けとか、そういうのを考えていると思われがちなんですけど、そうではなくて、ぼくは会社の抱えているリスクをどう減らすか、などを考えています」という。

ネットワーク多摩に応募

5社から企業賞受賞

起業のきっかけになったのは、社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩が主催する「第3回学生がつくる中小企業ホームページグランプリ多摩」に応募、5社から企業賞を受賞して自信をつ

かんだからだった。

稲村さんは、「もともと臆気ながら、起業したいなという気持ちはあったんです。そんな時、松本がインターンでいろいろ学んできて、これで起業してみないか、という話になって…。まずはということで、ネットワーク多摩の企画を見つけ、それに参加しながら会社を起すことになったわけです」という。

「他の大学では学生が起業するという話が結構あつたりするんですよ。早稲田大学なんかは大学側からの支援があるんですよ」という稲村さんは、自前の30万円を資本金に会社を起こした。Web制作を柱にスタートした経営は、その後、順調に事業を拡大してきている。現在はWeb制作に加え、音声認識システム、学生と企業を結んだ人材育成、寺院・幼稚園を対象にしたITコンサルティングなどに事業を広げている。

音声でパソコンに入力

大手企業から問い合わせ

その音声認識システムというものを詳しく教えてください、と稲村さんに聞いた。

「音声認識システムというのは、パソコンのinterfaceの代わりになってくれるものこと、



稲村さん（中央）をはさんで松本さん（右）と伊藤さん（左）

と考えています。例えば、今はデータの紙を見ながら手でパソコンにデータを入力していますが、それを音声（声）でパソコンが認識してくれればそのような手間は省けるようになります。さらに、難聴者の方に対して、例えばパソコンに自分で『あいうえお』と発音したとします。これが、どのくらいちゃんと発音できているかを確認するシステムなんかも考えています」

なるほど画期的なシステムだ。すでに大手企業からの問い合わせが入っているという。今後の発展に大きな期待がもてそうだ。

寺院と幼稚園をIT化 説法の映像化も

お寺と幼稚園に関するIT事業というのもユニーク。いったいどうして思いついたのだろうか。稲村さんは、「実は実家が幼稚園と寺院をやっているんです。で、そっちの方面でもITを活用できないかと考えたんです」という。

「寺院なんかは今の若者はあまり行か

ないじゃないですか。日本の文化なのに無くなっていくのはなんだか寂しいですね。そこで、なんとかITの力を利用して寺院離れをなくそうと考えたんです」

「これは実家が寺の自分にしか出来ないことじゃないかと。それに今、寺院が幼稚園と一緒にやっていますが、幼稚園の先生って若い女性がほとんどで、入れ替わりが早い。引き継ぎも、うまくできていないのが現状で、これを何とかしたいと思っています」

具体的にどのようなことを行おうと考えているのですか？

「幼稚園のほうは、連絡網を電話伝達ではなくパソコン上で行ったりとか…。寺院の方は説法の映像化とか…」

説法を映像化させてしまうとは、これもまたなんとも奇抜な発想だ。

人脈があつての起業 人との繋がりを大事に

「自分たちに出来ること、と考えたら、このITにたどりついたんです」という稲村さんの口の端々からは、「人脈」という言葉が何回となく聞かれた。気になったので「人脈が何か役立ったの

ですか」と聞いてみた。

「やっぱり人脈は大切です。人脈があつての起業ですね。本当に。大手企業を渡り歩き、現在もある企業を経営しているアドバイザーの方から、大分アドバイスをいただきました。今もそれは継続しています。で、そのアドバイザーの方は、大学のある研究室の助手さんから紹介していただ

たんです」

パソコンが数台あるだけの殺風景なオフィスからは想像ができないこの会社の多様な事業展開の背景には、「人脈」という目に見えない資産が支えになっているようだ。

「現在、学生による企業がかなり行われていますが、9割は失敗して終わっているんですよ。

でもその点、我々の会社はバックアップが全然違います。我々の行っている音声認識システムは今のところ日本で一番ですし、そう簡単には潰れません」

稲村さんは、自信を持って、こう強調した。

最後に、これから大学生活を送ろうとしている中大学生にメッセージをお願いした。

「人を大切に、人との繋がりを大事にしてください。大学生活の中で多くの人と出会うはずですよ。人から信頼されるためには、まずは自分を磨くことが大切ですし、常に目標を持って、成功した自分を描きながら日々の生活を送ると、より有意義に



テーブルに長機のオフィス

なるのではないのでしょうか」

稲村さんは今後、博士後期課程へ。松本さんは某大手企業へ。伊藤さんは自分の夢を実現するため資格を取る勉強を続ける、という。3人はこれからも前途を見据え、一步一步、着実に前進を続けて行くに違いない。

(学生記者 橋本奈緒美 大学院理工学研究科修士2年)



3人並んで仕事